

会議の概要

平成 29 年度 第 2 回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会

日 時：平成 29 年 6 月 28 日（水） 16:40～18:10

場 所：玉井小学校 多目的ルーム

進 行：玉井小学校教頭

1 開会のことば おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 後藤みづほ

2 教育長あいさつ 大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

○ オープンスクールと学校運営協議会を合わせて開催することとなった経緯について

先生方が校種を超えて交流し合う場という意味合いと、また、昨年度から、学校評価委員を兼務していただいているコミュニティ・スクール委員さんに、学校をもっとよく知っていただくため。年に 9 回のコミュニティ・スクール委員会の内 3 回はこのようなスタイルでお願いします。

○ 「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」の関係性について

今年度から地域学校協働本部が立ち上がり、大玉村全体の地域と学校の関係性をつくる活動をより強化していくこととなった。コミュニティ・スクール委員会では、熟議を通して活動の在り方についてご提言いただき、その取り組みについて評価検証していただくようになる。「地域学校協働本部」については、これから進めていく中で課題や疑問点などが出てくるかと思うが、みなさまのお知恵をお借りしながらその都度整理していきたいのでよろしくお願いします。

3 会長あいさつ おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長 伊藤和弥

今回はオープンスクール及び玉井幼稚園・小学校の学校運営協議会ということで、玉井幼・小に特化した話し合いをすることになっている。CS 委員さんにも、まずは学校を見てもらって感じてもらうことが大切だと思う。そして年度末の学校評価に生かしてもらいたいと思っている。学校の課題を共有し、主体的に関わっていきたいと思っているので皆様よろしくお願いいたします。

4 委員自己紹介（オープンスクールの感想を含めて）

（教育長退室）

(1) 本日の協議内容説明(玉井小教頭)

- ① 個人で付箋に記入
外部環境【客観的な特徴や事実】〈支援〉〈阻害〉
内部環境【客観的な特徴や事実】〈強み〉〈弱み〉
- ② グループでSWOT分析シート作成
- ③ グループでクロス分析による検討
- ④ 各グループからの報告

(2) 玉井幼稚園・小学校をSWOT分析

○ 各グループからの報告

〈外部環境 支援的要素〉

- ・スクールバスが充実している。
- ・小学校と幼稚園が近い。
- ・自然が豊かで静かな環境である。
- ・村内の施設が近く、学校の授業に生かせるのではないか。
- ・屋内プールも屋内運動場もある。
- ・芝生化されているので転んでもケガが少なく、水はけも良い。
- ・主要道路が離れているので安全。

〈外部環境 阻害的要素〉

- ・図書室が狭い。蔵書が少ない。
- ・公共交通手段が不便。
- ・芝生の維持管理が難しい。
- ・通学路が狭く危険なところがある。
- ・裏は山で、前は道路でどこからでも侵入しやすいので、不審者対策が必要。
- ・細長い園舎のため安全管理がしにくい。(幼稚園)
- ・園庭が狭い。(幼稚園)
- ・駐車スペースまでの動線が悪い。(幼稚園)
- ・物置が少ない。(幼稚園)

〈内部環境 強みの要素〉

- ・ボランティアさんが充実している。
- ・授業に保護者ボランティアが入っているのもすばらしい取り組みである。
- ・地域住民が協力的である。
- ・保護者も協力的で助けられている。
- ・校長と園長が兼務なのでアドバイスを受けやすい。(幼稚園)
- ・先生方の能力の高さを感じた。また先生方が明るい。

〈内部的環境 弱みの要素〉

- ・図書室の管理が教員だけでは手が回らない。
- ・友達の話聞くことが難しいお子さんがいる。
- ・スクールバスや学校の環境が充実していることなどから親御さんが学校に任せすぎ。
- ・体力の低下がみられるのではないかな。
- ・フリーの職員がいないので、具合が悪くなっても休めない。（幼稚園）
- ・幼稚園に依存する親御さんがいて、最近トイレが自立していないお子さんが入園してくる。
- ・子どもが出来ることでも手を出しすぎてしまう親さんがいることが心配。
- ・サポートが必要な子どもへの支援が見えにくかった。

〈クロス分析による検討〉

- ・図書室に常にいてくださるボランティアさんがいるとありがたい。
- ・小学校の子が幼稚園に行って読み聞かせをすることで聞く力を養成する。
- ・保護者の方もコミュニティ・スクール委員会などに関わってもらう手立てが必要。
- ・地域住民の方が下校時刻に外に出て見守る。交通事故だけでなく防犯にもつながり、子どもたちとの交流のきっかけとなる。
- ・CSとして先生方や子どもたちの多忙化への対策が打てればいい。
- ・自分のことができない保護者さんへの支援を地域ボランティアができないか。

（３）総括（園長・校長）

- ・予算が絡むものについては、教育委員会へも要望を出していきたい。幼稚園の物置は必要。
- ・現状でもボランティアさんには大変助けられているが、さらに一工夫して発展させていきたい。保護者には、地域住民が応援するという形でうまくかかわれる関係を築いていきたい。
- ・学校側として、ボランティアにお任せしすぎているのではないかな。
- ・特別支援については、支援員を配置していただいている。守秘義務について支援員は徹底されているが、ボランティアさんは守秘義務についての意識が不十分な可能性がある。意図的に配慮していきたい。
- ・CSとしても学校の多忙解消のため協力したいというご意見、ありがたく感じた。教育課程を見直して、必要なもの、不必要なものを洗い出していきたい。
- ・朝食をとらずに登校してくる児童がいる。学習への意欲や集中力にも影響している。朝食をとらないというのは全く子どものせいではなく、かといって家庭だけでも解決出来ない事情がある。子ども食堂のようなものを地域でやっていただけないものか。ただ、親が任せきりになってしまう問題もはらんでいる。コミュニティ・スクールで何か解決策が見つけられればと思っている。

6 閉会のことば

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 武田伸一

本日は朝からごくろうさまでした。また、幼稚園、小学校の課題についても洗い出した協議となったが、これからもみんなの目で見守っていきたいのでよろしくお願いいたします。



SWOT分析によるグループ協議のあと、各グループから出た意見を発表していただきました。